

発行所：一般社団法人 佐賀県臨床検査技師会
〒849-8501 TEL:070-2392-1447 FAX:0952-34-2028
事務局：佐賀大学医学部附属病院 検査部内

発行人：百田 浩志 編集人：福田 正博
URL : <http://saringi.jp/>
Email : saringi-jimu@saga.email.ne.jp (事務局)

2019年度第1回生涯教育研修委員会報告

標記委員会を6月25日(火)に佐賀県医療センター好生館にて開催しました。

各部門から今年度の活動計画と活動状況について報告があった後、執行部から研修会伝達事項について説明がありました。伝達事項の中で委員より質問があり、九州支部内での部門会議開催にあたり旅費支出のお願いがありました。この件について委員会後の三役会で検討した結果、予算上支出は難しいとの結論となりました。そのほか、申請書の様式を見直し、改訂することとしました。

その他として、昨年度開催の学会報告と、11月に開催される2019年度日臨技九州支部医学検査学会(第54回)について説明と参加案内および今後の研修会等開催予定の説明がありました。その中で、佐賀県医学検査学会の今後の運用について、多くの会員の参加・発表と、改善案について事務局へ連絡してほしいとのお願いがありました。また、この件について、委員から佐賀県内の技師長会議を開催してお願いすることはできないかとの意見があり、今後検討することとしました。

最後に委員から佐賀県の部門構成について質問がありました。佐賀県では臨床微生物と染色体・遺伝子部門の両方を微生物・遺伝子部門委員が兼任しており、会議への参加が負担となっている現状から部門を分けもらえないかとの意見でした。百田会長より、これまでの経緯の説明があった後、今年度はこのままでお願いしたいとの回答があり、来年度以降については検討していくこととなりました。

今年度も委員からの積極的な発言があり、充実した委員会となりました。(平野)

令和元年 日臨技定時総会報告

6月22日(土)東京都において令和元年度の日臨技定時総会が開催された。

まず、参議院議員である日臨技宮島喜文会長が財務大臣政務官という政府側の役職に就任されたため、法律上総会などの決定会議に役員としての出席ができなくなった旨の説明が行われた。

総会は横地常広副会長が会長代行として取り仕切り、議長などの総会役員選任の後、第1・2号議案である事業報告・決算報告が行われた。数件の質問はあったが、賛成多数で承認された。第3号議案は、監事の改選であり、中森泉氏(弁護士)・高原和之氏(公認会計士)の留任が承認された。第4号議案は定款の改定であり、主に2か所の改定が審議された。まず、入会資格の変更で、日臨技に入会しようとする者は、各都道府県技師会にも所属することを要件に加える提案がされた。

次に、日臨技理事定数の変更で、現在30名以内である定数を、56名以内に変更する提案がされた。これは、都道府県の数と会長推薦理事枠の合計数であり、各都道府県から1名の理事を招聘する意図がある。慎重な審議の後、承認された。

定款改定の意義は各都道府県技師会と日臨技の一体化を図るものとされている。確かに現在、日臨技のみの会員・また地臨技のみの会員の扱いに苦慮している。さらには、日臨技理事のいない都道府県への情報量が少ないのは否めないため、改定は同意できる。一方、私見ではあるが、都道府県技師会が独自性を失い、日臨技の支部化とされることも懸念される。(百田)

令和元年度 佐賀県医療関係団体連合会役員会報告

6月27日(木)佐賀市にて標記会議が開催された。当会議は、各種医療職の会長や製薬・卸の協会の代表者が集まり、主に政治的な活動について討議を行う。

まず、役員交代があった団体の代表者が紹介され挨拶された。続いて、会計報告や今年度の活動方針について審議した。(百田)

令和元年度都道府県災害対策研修会報告

7月13日(土)～14日(日)に、東京都大田区の日本臨床衛生検査技師会館で開催された、「令和元年度都道府県災害対策研修会」へ参加しました。この研修会は、発災時に都道府県技師会で災害マネジメントができる人材を育成することを目的として開催され、全国から44名が参加しました。

研修会の内容は、1日目に災害医療概論、各県の取り組みや他職種との連携、技師会としての対応、2日目は主にグループワークによるシミュレーション研修でした。

災害医療概論は、厚生労働省のDMAT事務局長から災害の定義と種類、救急医療と災害医療の違いなどについて説明がありました。近年増加している自然災害のほかにNBC災害(CBRNE テロ・・・核・生物/化学兵器・爆発など)への準備や災害の複雑化に対応するために組織的な準備が必要であるとの内容でした。また、災害への体系的な対応に必要な項目として、CSCATTT(Command and Control・Safty・Communication・Assessment・Triage・Treatment・Transport)について詳細な説明がありました。最初のCSCAがいわゆる災害医療における運用部分で、後半のTTTが提供される医療支援になります。災害医療で真っ先に行う部分がCSCAになるということで、命令指揮系統の確立と支援者および受援者の安全確保、情報収集とその評価が重要であることが理解できました。

裏面に続く

その他、トリアージの方法や治療について、そして一番ボトルネックとなりやすい搬送についての問題点や対応などについて説明がありました。災害への取り組みとして、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの具体的災害を例に挙げ、改善されていったこと、浮かび上がってきた課題などについて紹介がありました。災害では需要（ニーズ）と資源（リソース）の大きな不均衡がより壊滅的な結果をもたらすものであり、そのアンバランスをいかに効率よく正していくかが重要であるとのことでした。また、その需要に関して急性期では医療が大きなウェイトを占め、亜急性期から慢性期では保健や福祉が大きなウェイトを占めることから、変化するニーズに適切に対応することが重要であると感じました。

各県の取り組みでは、山梨県から熊本地震、西日本豪雨、北海道地震での対応について紹介がありました。山梨県では、県の災害時保健医療救護体制の中に技師会も参入すべく協定を締結するなど、非常に先駆的な対応をされており感銘を受けました。和歌山県では、近い将来起こりうる南海トラフ地震を想定して災害対策支援マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた連絡網による災害対策訓練の実施、毎年12月に開催している災害フォーラムでの意識付けなど、非常に積極的な取り組みをしていました。

他職種との連携では、日臨技との協働はもちろんのこと、DMAT（災害派遣医療チーム）、JMAT（日本医師会災害医療チーム）、JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）の一員としての活動を推進していく必要があるとのことでした。現在これらのチームの一員として活躍している臨床検査技師はいますがまだ他の職種と比べると少ないのが現状です。災害活動の中で、臨床検査技師はDVT検診やPOCTだけでなく、避難所の感染症コントロール、公衆衛生管理など多岐にわたり活躍出来る場があるという内容でした。現場では何より受援者のニーズを把握し、「技師」としてはもちろんですが「医療人」として活動することが「支援」の根幹であり、支援者の考えにより行うものではないことも強調されていました。

2日目は机上シミュレーションを行いました。DMATインストラクター（臨床検査技師）がファシリテーターを務め、グループごとで発災直後から対策本部の立ち上げ、活動内容と活動にあたっての問題点、最後に平時の備えなどについてディスカッションが行われました。この中で、まずは「災害モード」のスイッチを入れることの重要性について説明がありました。スイッチが入らないと災害では大きく遅れが出ることもあり、自動参集基準を設定することや、迷ったらスイッチを入れる姿勢で取り組んでほしいとのことでした。その他、対策本部での経時的活動記録（クロノロジー：クロノロ）の重要性や、活動開始時に行う内容（HeLP-SCREAM）について紹介がありました。

この研修会を受講して、佐賀県臨床検査技師会として災害に関して何も準備できていないということと、職能団体としてどこまで体制整備を行うべきかという思いを持ちました。参加したメン

バーからも同様の意見を聞くことができました。災害拠点病院に指定されている施設ではDMATの設置とBCP策定が義務付けられており、その他の施設においても対策が策定されているところも多く、発災時はまず各施設での災害対応となると思います。その中で、技師会役員（災害対策委員）が会員の求めるニーズを把握し何ができるかは、今後ディスカッションする必要があると感じました。

最後に、災害医療の分野で頑張っている仲間と話をすることができ大変刺激になりました。そして、日々の業務に関しても「医療人」としての取り組みがもっと必要だと思いました。（平野）

＜検体採取等に関する厚生労働省指定講習会＞

2019年度開催分の指定講習会の予定は下記の通りです。九州での開催は今回が最後となりますので、未受講の方は早めにお申し込みください。また、今年4年制大学を卒業した技師の方は受講対象ですので職場の方はご配慮をお願いします。

開催日：2019年9月14日（土）15日（日）

会場：福岡市 純真学園大学

※申し込み方法等、詳細は日臨技HPでご確認ください。

＜会員情報の変更＞

日臨技の会員情報（施設名・氏名・自宅住所等）に変更がある場合は、各自速やかに日臨技HPにて修正を行ってください。

参議院議員選挙の報告と御礼

日頃は大変お世話になります。

今回の参議院議員通常選挙での日衛協理事小川しんじ候補のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様方のご支援とご協力にも係らず、議席を得ることが出来ませんでした。ここにお詫び申し上げます。85,000票程の皆様のご支援をいただきました。

今回の結果をうけ、3年後の選挙に繋げるには、皆様一人ひとりが、この高揚を維持していくことが、大事でありますので、今後の活動に更なるご協力をお願いいたします。

まづもって、お礼の言葉に代えさせていただきます。

日本臨床検査技師連盟 代表 梶山広美

投票いただきました方々に深く御礼申し上げます。次回は我々の希望が国政に届くよう、更なるご協力をお願いいたします。

佐賀県支部 百田

7月三役活動報告

13～14日 災害マネジメント研修会（東京都）・・・平野

25日（木）三役会（佐賀市）・・・全三役

30日（火）第1回佐賀県医師会精度管委員会・・・百田